

本日いただきたいご意見

Key Projectについて御意見を申し上げます。

- グループごとに事務局が指定したKey Projectに対して、今後の検討に際して、大切にすべき点や必要な視点などについて、意見交換をしてください。

(感想や期待する点などのほか、課題だということなどでも結構です。)

- 主な意見は、代表者が全体に対して発表していただきます。

本日の進め方

①グループで意見交換(15分)

【指定したKey Projectに対して意見交換】

他の委員と意見交換を行い、自分の意見を深めていただきます。
感想等でも構いません。

②グループで出た意見を発表 (10分) 1グループ3分程度

【グループごとに代表者お一人がお願いします。】

③発表を聞いて、別のKey Projectをグループごとに設定し、さらに意見交換(15分)

自分の立場で考えたことや、他の委員の意見を聞いて気づいたこと等を踏まえ、御発言ください。

④グループで出た意見を発表 (10分)

【グループごとに代表者お一人がお願いします。】

本日の議題

タイムテーブル

18 : 25

(15分)

グループ協議

Aグループ
KeyProject1
探究

Bグループ
KeyProject2
支援教育

Cグループ
KeyProject3
働き方

18 : 40

(10分)

グループごとに発表 (各グループ 約3分)

18 : 50

(15分)

グループ協議

Aグループ
KeyProject2
支援教育

Bグループ
KeyProject3
働き方

Cグループ
KeyProject1
探究

19 : 05

(10分)

グループごとに発表 (各グループ 約3分)

19 : 15

第3章 次期プラン策定に向けた考え方

4 “Key Project”について

基本的な考え方

- 少子高齢化の進行や人口減少社会の到来、気候変動に伴う自然災害の激甚化など、これから私たちは、今まで以上に激しい変化の時代を生きることとなります。
- そのような時代において、次期プランで掲げる「めざすもの」を実現していくためには、**今後の本市の教育において特に重要となるテーマを明確にし、その推進にあたっては、横断的に取り組んでいくことが必要であると考えます。**
- 次期プランでは、具体的な取組を「実施計画」として体系的・網羅的に整理していきますが、**「めざすもの」の実現に向けて市民の皆様の理解を得ながら、重点的に取り組む重要なテーマを“Key Project”として新たに位置づける**こととします。
- 不確実性が高まり、さまざまな教育課題が山積しているこれからの時代において、子どもたち一人ひとり、市民一人ひとりが、自分らしく学びを進めることができるよう、“Key Project”を推進します。

Key Projectの候補

- Project 1 社会参画に向けた資質・能力を育成する探究的な学びの充実
- Project 2 学校、関係機関などの組織等の枠を越えた連携による切れ目のない支援
- Project 3 教職員が働きやすい環境づくり
- Project 4 生涯を通じた「学び」と「学び合い」社会の実現

第3章 次期プラン策定に向けた考え方

4 “Key Project”について

Project 1

社会参画に向けた資質・能力を育成する 探究的な学びの充実

- 変化が激しく将来の予測が困難な時代を自らの力で生き抜いていくためには、「**自分(たち)で考え、解決していく学び**」が重要であり、「めざすもの」の実現に向けては、自ら地域・社会に関わり、課題を見つけ、他者と共に考え、解決していく「探究的な学び」を充実させる必要があります。
- 本市では、既に総合的な学習の時間を中心に各学校において「探究的な学び」の実践が行われていますが、これまで取り組んできた、地域と共にある学校づくりの取組や「キャリア在り方生き方教育」における地域への愛着を深める教育活動を発展させながら、**地域・社会への参画を通して、資質・能力を育成する探究的な学びを、すべての市立学校で実践**できるよう検討していきます。



《検討の視点》

POINT
1

小中9年間を通じた探究的な学び

小中9年間の中で発達段階に応じて身につける資質・能力を共有しながら、地域の小・中学校が連携し、教育活動に取り組む環境を整えていきます。

POINT
2

川崎の特色を活かした取組

「キャリア在り方生き方教育」など、これまでの本市の取組を土台として、学校と地域との関係を大切にしながら、各学校や地域の特色を生かした探究的な学びに取り組んでいきます。

POINT
3

地域と連携した教育活動

探究的な学びを進めていくためには、地域の理解や協力が重要となるため、地域との関係をより深める取組を行っていきます。

第3章 次期プラン策定に向けた考え方

4 “Key Project”について

Project 2

学校、関係機関などの組織等の枠を越えた 連携による切れ目のない支援

- ダイバーシティやインクルージョンの進展といった市民の価値観の多様化が進んでいる中、本市では、今後、児童生徒数の減少が見込まれる一方で、**特別支援学校や特別支援学級の在籍者、不登校児童生徒などは増加しており、一人ひとりに合った支援を行うためには、学校だけで対応することは困難な状況**となっています。
- そのため、本市では、**異校種間の縦の連携や、保健・医療・福祉の関係機関等との横の連携をより一層強化し、組織等の枠を越えて連携した支援体制を整備し、児童生徒のライフステージを見通した切れ目のない支援の充実**に向けて検討していきます。

《検討の視点》

POINT
1

発達段階等に応じた切れ目のない支援

一人ひとりの成長・発達段階や就学の過程に応じた切れ目のない適切な学びを実現するため、幼保・小学校・中学校・高等学校の連携を進めていきます。

POINT
2

多様な主体との連携による支援

一人ひとりの資質・特性、成長に伴う障害等の変化や複雑化、多様化する不登校の背景、理由に応じた適切な支援を行うため、学校、関係局区、保健・医療・福祉の関係機関、さらには地域や民間団体等、多様な主体との連携を進めていきます。

POINT
3

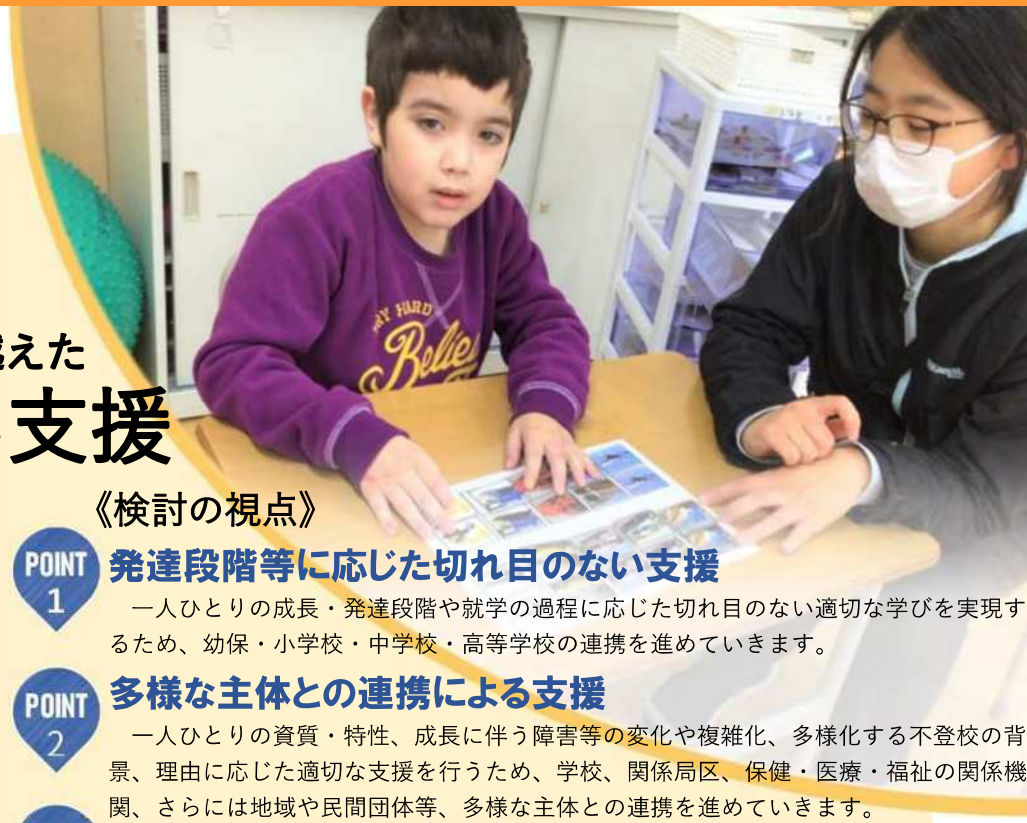
多様な学びの場の提供

一人ひとりが自己を理解し、自分らしく社会的に自立していくためには、それぞれの力を伸ばすことのできる環境が整った学びの場があるとともに、自分で選択できることが必要であるため、多様な学びの場の充実に向けた取組を行っています。

POINT
4

児童生徒の安全・安心な居場所づくり

「放課後等の子どもの居場所に関する今後の方向性」（令和7（2025）年3月こども未来局策定）に基づき、関係局等と連携しながら、児童生徒が健やかに育つことのできる居場所づくりを進めていきます。



第3章 次期プラン策定に向けた考え方

4 “Key Project”について

Project 3

教職員が働きやすい環境づくり

- 教員の長時間勤務が課題となる中、本市においては2次にわたる「**教職員の働き方・仕事の進め方改革の方針**」に基づき、様々な取組を進め、時間外在校等時間の縮減などの成果が出ているものの、文部科学省が指針として示した**時間外在校等時間の上限を超えている教員の割合は、依然として大きい状況**です。
- 35人学級制や特別支援学級の児童生徒数の増加等を要因として、**教員の定数は増加**していることに加え、全国的な教員不足の影響は本市でも例外ではなく、特に年度途中における産育休取得者の代替教員の確保が難しいなど、**教員不足の状況**が続いています。
- 今後も、各学校において「働き方・仕事の進め方改革」の実践の支援を進めるとともに、**人材確保を含めた更なる取組の推進に向け**、市立学校で**働く環境の改善を進めるためのしくみづくりを検討**していきます。



《検討の視点》

POINT
1

教育課程の編成による創造的な余白づくり

児童生徒の在校時間を短縮する工夫など、教員本来の業務である授業準備等に充てる時間の確保を検討していきます。

POINT
2

人材確保の取組や教員の負担軽減・業務改善

人材確保の取組を積極的に推進し、定数不足の解消を図っていきます。また、必ずしも教員が担う必要のない業務等について見直しを図るなど、教員の負担軽減に取り組んでいきます。

POINT
3

児童生徒主体の学びへの転換

児童生徒が主体的に考えて学びを自走していくように、教員はファシリテーター役を担う学びへの転換に向けた取組を推進していきます。

POINT
4

しくみづくり・環境整備

ICT技術等を活用等した業務改善や委託化等により、教員の業務負担を軽減し、効率的な環境整備を推進していきます。

第3章 次期プラン策定に向けた考え方

4 “Key Project”について

Project 4

生涯を通じた「学び」と「学び合い」社会の実現

- 子どもだけでなく、大人にとっても、変化が激しく将来の予測が困難な時代を心豊かに生きていくために、**生涯を通じて学ぶこと**が大切です。さらに、個々の「学び」を社会に発揮することや、「学び」を通じたつながりづくりによって、**ウェルビーイング社会の実現が期待**されています。
- 市民館や図書館を中心とした**市域全体での「学び」の場づくり**や、地域教育会議や地域の寺子屋事業などの**地域での教育活動の推進を一層進めること**で、より幅広い市民が学び、互いに**学び合いながら、緩やかなつながりが広がるよう検討**していきます。



《検討の視点》

POINT
1

生涯学習環境の充実による「学び」の推進

市域全体を学びの場と捉え、時間や場所にとられない「学び」の支援を推進していきます。市民の学びの意欲が学習の実践につながるよう、「学び」の内容、場所、手法等、さまざまな「学び」から市民が選択でき、いつでも、どこでも「学び」に触れることができるような生涯学習環境の充実を図ります。

POINT
2

「学び合い」を通じた緩やかなつながり

個人の「学び」を社会に発揮する人づくりや、「学び合い」による緩やかなつながりづくりを進めていきます。

POINT
3

学校と連携した教育活動

地域と学校が同じ教育理念を共有する「地域学校協働活動」を推進し、大人と子どもが共に学び合う活動の充実を図ります。